学芸

芸術創作工房プレイベント

5カ国11人滞在制作

28日まで青森市で開催

期間中シンポや演劇上演

「発信地」体験狙う

青森市芸術創作工房（仮称）の開館に向けたプレイベント「インターナショナル・アーティスト・イン・レジデンス青森『バドゥルズ―水辺』」（青森市主催）が二十八日まで開かれている。五カ国十一人のアーティストが市内各所で滞在制作を行っているほか、アーティストによるパフォーマンス、シンポジウム、演劇など多彩なプログラム。平成十三年十二月の開館を目指す芸術創作工房がどのようなものなのか、事前に市民に実感、体験してもらおうという趣向だ。

◇

青森公立大の隣接地に建設を予定している同工房は、芸術家に創作活動の場を提供、一定期間滞在しながら創作に取り組んでもらう「アーティスト・イン・レジデンス」を中心的な機能に据え、地域に溶け込んだ芸術の発信地を目指している。

プレイベントには本県から青森市の彫刻家、鳴海恒夫さんが参加。横内市民センター雲谷分館の屋外で、スギの丸太四十本を使った彫刻を制作している。

長さ三㍍の丸太をチェーンソーで七―八等分し、個々の上面の木口をハンマーでたたいている人に何かを返してくる」と鳴海さん。二十二日までに完成させようと、毎日午前八時半ごろから午後五時まで制作に取り組んでいる。

作品の制作に向けスギを切り分ける鳴海恒夫さん＝青森市の横内市民センター雲谷分館

県人ではほかに、平賀町出身の中瀬康志さんが青森公立大・国際交流ハウスの屋外で土とラス網を使った立体作品を制作する。天野豊久、箭内新一、フィル・ニブロック（アメリカ）、マリア・ブロンデール（ベルギー）、ヤンス・ブランド（ドイツ）、ミヒャエル・フォルフェルド（同）、エファ・マリア・コーリシャン（同）、ジャン・マルク・スパーンズ（オランダ）、カミール・フェルシュフーレン（同）の九氏も順次来青し、雲谷地区のほか、新町のアートプラザARIA、西衡器つぶれた木口は、繊維が細かく立ち上がり、柔らかな感触。咲いたヒマワリのようにも見える。これを約三百個、屋外に並べるという。

「たたきつぶすという行為を通じて、破壊と創造を同時に行う。作品のテーマは『センサー細胞』。木口の柔らかな上端で世界を感じ取り、見く。

オープンスペース、青森港中央埠頭県営二号上屋などを会場に滞在制作。そのまま二十八日まで作品を展示する。

シンポジウムは十四日午後五時から七時まで「アーティストの環境」と題し、二十一日午後五時半から七時半まで「街とアート」と題し、ともに青森港中央埠頭県営二号上屋で行われる。青森市芸術創作工房ディレクター浜田剛爾さんの司会で、十四日は中瀬さん、伊藤洋介さん（ダブリュー・キューブ・プロジェクトディレクター）、立木祥一郎さん（県教育庁美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸主査）、二十一日は豊島重之さん（モレキュラー・シアターディレクター）、黒岩恭介さん（県教育庁美術館整備・芸術パーク構想推進室美術館整備推進監）、小山内誠さん（あおもりNPOサポートセンター副理事）をパネリストに迎える。

そのほかの日程は次の通り。

◇15日＝アーティストトーク（コーリシャン、スパーンズ、フェルシュフーレンの各氏）▽パフォーマンス（ニブロック、ブロンデール、フォルフェルドの各氏）

◇19日＝ブランド、箭内両氏の合同パフォーマンス

◇21、22日＝モレキュラー・シアター公演「Legend of HO」青森港中央埠頭県営二号上屋（21日は午後4時、同8時の2回、22日は午後1時半、同3時の2回）

※すべての展示、イベントは入場無料。会場、時間などの問い合わせはアートプラザARIA（電話017・732・7251）、あおもりNPOサポートセンター（同017・744・1100）へ。